

2. 管理作業によるトマトかいよう病の地上部伝染（情報）			
[要約] ハサミを用いた芽かぎおよび収穫作業はトマトかいよう病の地上部伝染を起こす。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

県中・北部の雨よけトマト産地の一部で発生しているトマトかいよう病は激発すると甚大な被害を引き起こすが、雨よけ栽培での発生生態や伝染環は明らかでない。そこで、雨よけ栽培における管理作業に伴う病原細菌の地上部伝染状況を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. 病原細菌を接種したトマト株から、常に同じ方向へハサミで芽かぎ及び収穫を行ったハサミ作業区では接種株から作業の方向に沿って発病が認められる（図 1）。
2. 一方、手で切り口に触れないよう芽かぎ及び収穫を行った手作業区では、接種株から他の株への伝染は認められない（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本病の発生圃場では、芽かぎおよび収穫作業は切り口に触れないように手で行い、果実を手で収穫した後に果実側の果柄をハサミで切ることが伝染防止に有効と思われる。

[具体的データ]

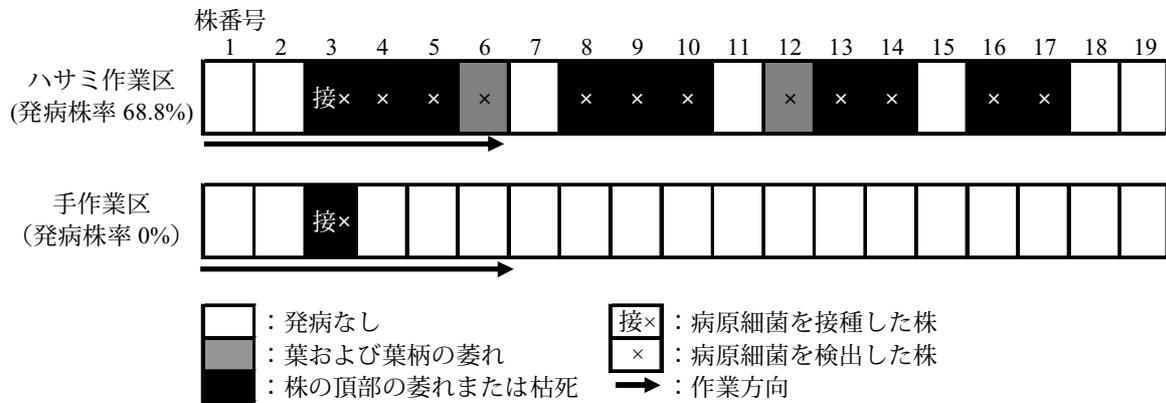


図1 管理作業とトマトかいよう病の伝染様式

注) 調査期間：7月7日～10月23日

[その他]

試験研究課題・事業名：雨よけトマトかいよう病の生態解明による総合的防除技術の開発

予算区分：交付金（病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：平成 18～20 年度